

1							(別紙3)
2		公表	事業所における自己評価総括表				
3							
4	○事業所名	児童発達支援事業所ぴっころ円山プラス					
5	○保護者評価実施期間	令和8年 3月 2日		～	令和8年 3月 13日		
6	○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27家庭	(回答者数)	22家庭		
7	○従業員評価実施期間	令和8年 3月 2日		～	令和8年 3月 13日		
8	○従業員評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)			
9	○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 23日					
10	○分析結果						
11		事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等		さらに充実を図るための取組等		
12	1	子どもの「やってみたい」「自分で選びたい」という気持ちを、発達支援の入り口として捉えられること。	自由遊びや活動の中で、子どもが選択したものや興味を示したことを観察し、ことば・運動・対人面などの支援につなげることを意識している。		大人が用意した課題を経験するだけでなく、子ども自身が選ぶ・試す・伝える場面を活動の中に意識的に取り入れ、主体性と発達目標を両立させる。		
13	2	小集団の中で、個別支援計画の目標を実際の人とのやり取りや生活場面で経験できること。	個別に練習して終えるのではなく、順番を待つ、相手に伝える、折り合いをつける等、他児がいるからこそ生じる場면을支援機会として捉えている。		集団活動を一律にこなすことを目的にせず、一人ひとりの目標に応じて参加方法や援助量を変え、集団の中での個別支援をより明確にする。		
14	3	子どもの「できた・できなかった」だけで評価せず、取り組みやすかった条件や支援の方法を考えながら関わること。	同じ課題でも提示方法、見通し、声かけ、相手や人数等によって反応が変わることを踏まえ、子どもの様子を見ながら支援方法を調整している。		成功した場面だけでなく、難しかった場面も「何が影響したか」という視点で振り返り、次回の環境設定や関わり方を具体的に変える支援につなげる。		
15							
16		事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等		改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等		
17	1	活動を成立させることが優先されると、子ども自身が考える・選ぶ・試行錯誤する時間が少なくなる可能性があること。	安全面や時間の見通しを優先する場面では、大人が手順や正解を示すことで活動を進めやすくなる一方、本人が試す機会が少なくなる場合がある。		すぐに援助する場面と待つ場面を意識的に分け、子どもが自分で考えたり援助を求めたりする過程そのものを支援として捉える。		
18	2	活動プログラムの「種類」を増やすことだけでは、子どもの発達目標とのつながりが見えにくくなること。	活動が固定化しないよう工夫している一方、同じ活動を繰り返すことが定着につながる場合もあり、新規性と反復のバランスを考える必要がある。		活動名ではなく「何を体験してほしいか」を先に整理し、同じねらいでも遊び方や難易度を変えるなど、目的を軸にプログラムを検討する。		
19	3	子どもの成長を、事業所内で見られる変化だけで捉えると、家庭や園など生活全体への広がりを確認しにくいこと。	事業所ではできるようになったことでも、相手・場所・集団の大きさが変わると同じように発揮できない場合がある。		保護者等から生活場面での変化を確認し、身についた力が別の場面でも使えるよう、支援条件を整理しながら般化を意識した支援につなげる。		

2			公表保護者等からの事業所評価の集計結果									
4												
5	事業所名	児童発達支援事業所びっころ円山プラス					公表日	令和8年 3月 23日				
6												
7							利用児童数	27家庭		回収数 22家庭		
8			チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応		
9	環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2		1					
10		2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21			1					
11		3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思	17	1		4					
12		4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。	21			1					
13	適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援	21			1	活動内容が分かりやすく共有され、子どもの特性に合わせた専門的な支援をいただいていると感じます。		今後も子どもの特性や発達段階を踏まえ、支援のねらいと日々の活動がつながるよう支援内容を検討します。		
14		6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合	10	2		10	支援プログラムをどこで確認できるかわからないという意見がありました。		支援プログラムの掲載場所や内容について、保護者により分かりやすく伝わる周知方法を検討します。		
15		7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分	21	1			面談で子どもの特性や家庭での様子を丁寧に聞いていただき、保護者の意向も踏まえて計画を作成してもらっています。		保護者の意向と子どもの姿の両面を確認し、個別支援計画と実際の支援内容がつながるよう継続して見直します。		
16		8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提	20			2	個別支援計画について、子どもに合った(親のニーズに合った)内容で設定され、その計画に沿った支援が行われていると思います。				
17		9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19			3	個別支援計画について、子どもに合った(親のニーズに合った)内容で設定され、その計画に沿った支援が行われていると思います。				
18		10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います	19			3	活動内容が固定されず、季節の活動や家庭では経験しにくい内容も取り入れられていると思います。		活動の定着と経験の広がりの両方を意識し、子どもの反応を見ながらプログラムを組み立てます。		
19		11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと	6	1	3	12					
20	保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい	22								
21		13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22								
22		14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング)	11	2	2	7	家族向けの情報提供はありますが、保護者同士で交流できる機会もあると参加してみたいです。		既存の勉強会等に加え、保護者やきょうだいを含めた家族支援についてニーズを確認し、実施方法を検討します。		
23		15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に	21			1					
24		16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20			2	日々の様子を伝え合えるため安心しています。必要な時に相談できることも助かっています。		送迎時・電話・面談等を活用し、家庭と事業所で見られる子どもの姿を共有しながら支援に反映します。		
25		17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20			2					
26		18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流	1	3	6	12	相談した際には電話等で状況を確認し、一緒に対応方法を考えていただけました。		相談内容に応じて電話・面談等を使い分け、必要な場合には関係機関との連携も含めて対応します。		
27		19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されている	19			3	ノート等で支援中の様子が分かりやすく、家庭での関わりの参考にもなっています。		支援場面で見られた変化や有効だった関わりを、家庭でも活用しやすい形で共有できるよう努めます。		
28		20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると	21			1	ホームページで活動の様子を見ることを楽しみにしています。		活動の様子に加え、研修・訓練・自己評価等についても必要な情報が届くよう発信内容を見直します。		
29		21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制	20			2	毎回の活動の様子をHPで見るのが楽しみです。				
30		22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20			2	マニュアルや訓練について、実施している内容がもう少し分かると安心です。		安全に関する取組や訓練について、契約時だけでなく日常的にも確認できる周知方法を検討します。		
31	非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル	14	1		7	避難訓練等を行っていると思いますが、実施状況が分からないため「わからない」としました。		避難訓練等の実施状況が保護者にも伝わるよう、情報発信の方法を整えます。		
32		24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓	4	3		15	契約の際にしっかり説明を受けているので心配していません。				
33		25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、	16	2		4					
34		26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事	15	1		6					
35	満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	20	2			本人が安心して通えており、利用日を楽しみにしています。		子どもが安心して自分らしく参加できる関係づくりを大切にし、本人の様子に応じた支援を継続します。		
36		28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	3							
37		29	事業所の支援に満足していますか。	21			1	ことばや友だちとのやり取りなど、以前より成長を感じており支援に満足しています。		保護者と成長や課題を共有しながら、個別支援計画に基づく支援の質を継続的に見直します。		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所びっころ円山プラス				公表日 46104		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		午前午後で人数の振り分けを行なっているの で、人数が多くなりないように工夫している 。	2階のびっころ円山に比べると少し狭いが、 机上に特化した活動を取り入れている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		職員を加配している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている	○		パーテーション等を使ったり、玩具の置く位 置を気を付けている。また、特性に応じて個 別室の使用もしている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また	○		日々の消毒や清掃の徹底をしている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認めら	○		自由遊びで使えない場所というルールを伝え ている。学習や切り替えをする場所として認 識している。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広	○					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設け	○					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に	○		毎月職員会議等や朝礼を行ない、周知徹底や 連携を図っている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で	○		社内研修、ケース会議等を積極的に行なっ ている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者	○		面談や日々の様子、職員の観察をもとにニ ーズを整理し、支援計画に反映している。	子どもの行動だけでなく、背景や「どのよ うな条件なら取り組みやすいか」まで整理し、 具体的な支援方法につなげる。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけ	○		更新の際に担当者会議を行なっている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われ	○		担当者会議等で支援計画のねらいを確認し、 日々の支援へ反映している。	目標を活動場面に落とし込み、集団活動の中 でも個別目標を意識した関わりができるよう 確認する。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマ	○		独自のアセスメント表と日々の行動観察を組 み合わせて、発達や生活上の様子を確認して いる。	年齢や発達段階に応じた観点を整理し、アセスメント結 果を支援の優先順位につなげやすくする。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支	○			明確にしているが、本人支援の枠が大きく、 他の支援記入欄が少ない。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		週案であるが、全職員で決めている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動のねらいを職員間で確認し、子どもの状 況に応じて難易度や参加方法を調整している 。	支援者が活動を進めるだけでなく、子ども 自身が選択したり試したりできる場面を意識 して取り入れる。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児	○		個別活動と集団活動を組み合わせ、支援計画 に沿って経験できる場面を設定している。	集団の中で個別目標をどのように経験でき たかを振り返り、次の活動設定に反映する。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の	○		午前午後で朝礼・昼礼を行ない、反省や打合 せをしている。	2階		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援	○		朝礼・昼礼や適宜必要な場面で行なっている 。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に	○		専門職・保育士それぞれの視点で日々の様子 を記録し、支援の振り返りに活用している。	記録を出来事の記載だけで終わらせず、子ど もの反応と支援条件を整理して次の支援につ なげる。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性	○					
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこども		○	相談支援事業所を利用しているご家庭が今現 在ではありません。			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係		○		ST・OTがいるので医療機関や繋がりのある幼 稚園・保育園とは連携を取っているが、地域 や学校は希薄。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の	○			ご家庭や各関係機関にも情報共有に当事業所 は積極的である事は伝えているが、希望して いるご家庭や関係のある関係機関のみ、連携 を図れている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支	○			ご家庭や各関係機関にも情報共有に当事業所は積極的 である事は伝えているが、希望しているご家庭や関係の ある関係機関のみ、連携を図れている。		
	28	(28～30は、センターのみ回答)						
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。						
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。						
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
	31	(31は、事業所のみ回答)			定期的な訪問の時に助言を頂いている。			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する		○				
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や	○		送迎時、電話、面談等を活用し、家庭と事業 所それぞれの様子を共有している。	事業所で有効だった関わりや子どもの変化を、家庭でも 活用しやすい具体的な形で共有する。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレ		○		職員がペアレントトレーニング研修に参加しているの で、そういった会の開催や保護者会を検討しているが、実 施には至っていない。 年中向けに就学に向けた研修会は毎年実施		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行	○		見学時からお伝えしている。			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重	○					
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者が	○					
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ	○					
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士の		○		言語聴覚士による勉強会や就学に関する説 明会等は行なっているが、対象年齢があるた め、一部の方のみでの発信になっている。		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備す	○					
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要		○		情報発信を行なうようにしているが、勉強会 や防災訓練の告知を徹底出来ていない。		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについて同意を得ている 。			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	○					
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		○		地域住民を招待した行事は毎年検討はしてい るが、どういった行事が適切か模索中。		
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感	○				
		46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、	○				
		47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し	○		見学・契約時に確認している。		
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされてい		○	除去を徹底しているが、指示書に基づいた対 応ではない。			
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措	○					
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づ		○		契約時に説明をしているが、ご家庭と連携が 図れるような説明にはなっていない。		
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について	○		ヒヤリハットや気付きを職員間で共有し、対応 事故防止だけでなく、子どもの行動の背景や支 援方法まで振り返り、再発防止と支援改善の 両面に活用する。			
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を	○					
53		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に	○					